補助　学芸技術（アルス）の「総合知」の涵養を通した国際的クリエーターの育成（通称：東京大学アルスノーヴァ）

（実施団体：国立大学法人東京大学）

目的・目標

近年、「アート思考」や創造性への関心が高まる一方で、狭義の「アート制作」は制度的な支援や社会的基盤を失いつつある。芸術大学は専門スキルの訓練に傾き、総合大学では創造的実践に触れる機会が乏しい。また、企業や文化機関の内部にも、制度の枠組みに収まりきらない創造実践への渇望が確かに存在する。こうした状況の中で、本質的なニーズは二重化している。一つは、既存の教育・産業の枠内で必要とされる即戦力的スキルへの対応、もう一つは、その枠組み自体を捉え直し、社会の基盤に新たな視座をもたらす創造的な教育・実践への希求である。本プロジェクトでは、「芸術（アート）」をその語源である「術（アルス）」に差し戻し、技術の開発や流通ルートの開拓等を含む広義の「制作」を通じて、現状の課題やニーズに応答する人材の育成を目指す。

概要

受講者は①センサ、インターフェース、VR、未来予測、演技、振付など多様な「アルス」と、②調査術、経済術、ドラマトゥルク術など批判的思考を育む「メタアルス」を、異分野の専門家が協働して行うワークショップ形式の授業を通じて体得する。さらに複数の「アルス」を連携させる制作チームを編成し、成果をプログラム内のパブリッシング部門や企業・美術館・東京大学の海外拠点などを通じて社会に発信する。5年目には履修証明制度化を実現し、新たな教育・創造・発信の循環モデルを提示する。

（区分・分野）
デザイン等（分野横断的新領域）

（対象となる職種）
創造活動の実践者および周辺人材

（育成人数）
140名／3年

3年目までの取組

基礎課程1年、応用課程1年から成るクリエーター育成プログラムを実施する。1～2年目前半は、事務局整備や社会連携・海外連携の調整等の準備を行うとともに、プレ企画実施を通したアウトリーチ活動に取組む。2年目後半より基礎課程を実施し、3年目後半より応用課程を開始する。各授業科目では企業や国内外の芸術団体、教育研究機関等との連携や成果発表等が含まれ、年間を通じ継続的に成果発表を行う。3年目終了時までに基礎課程修了者を輩出する。

5年目までの取組

履修証明プログラムの実現を見据えて準備を進めていく。5年目までの取組で、応用課程修了者を輩出するとともに、海外連携・社会連携取組や社会発信・成果発表を加速させていく。本育成プログラムの成果や国内外の産官学を横断する人的ネットワークを資源とし、この上に本学における新たな履修証明プログラムの構築を目指す。

成果目標（見込）	目標値
国際的な活躍に必要なスキル習得のために開発・実証された育成プログラムの数	3年目：16件 5年目：36件
国内外の教育機関・専門機関・企業・団体等との連携数	3年目：20件 5年目：30件
育成プログラムの参加者が世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設・大学等の教育機関への参画や招へいを受けた件数	3年目：0件 5年目：7件
育成プログラムの実証に参加した人数	3年目：140人 5年目：270人

中核となる指導者等

中井 悠（東京大学総合文化研究科准教授） ディレクター / ACUTフェロー
No Collective のメンバーとして音楽、ダンス、演劇、お化け屋敷などを世界各地で制作。実験的電子音楽、パフォーマンス、影響や癖の理論などを研究。著書に『 Reminded by the Instruments: David Tudor's Music』(オックスフォード大学出版、2021年) など。翻訳に『調査的感性術：真実の政治における紛争とコモンズ』（水声社、2024年）など。東京大学副産物ラボ主宰。

針貝 真理子（東京大学総合文化研究科准教授） 副ディレクター / ACUTフェロー
演劇学、ドイツ文学・思想。著書にOrtlose Stimmen. Theaterinszenierungen von Masataka Matsuda, Robert Wilson, Jossi Wieler und Jan Lauwers (Bielefeld: transcript, 2018)、共編著に『文化を問い直す 舞台芸術の視座から』（彩流社、2022年）、『演劇と民主主義 演劇学と政治学のインタラクティブ』（三元社、2025年）。ドラマトゥルクとしての実践活動経験もある。

国際的な場での実践の取組例

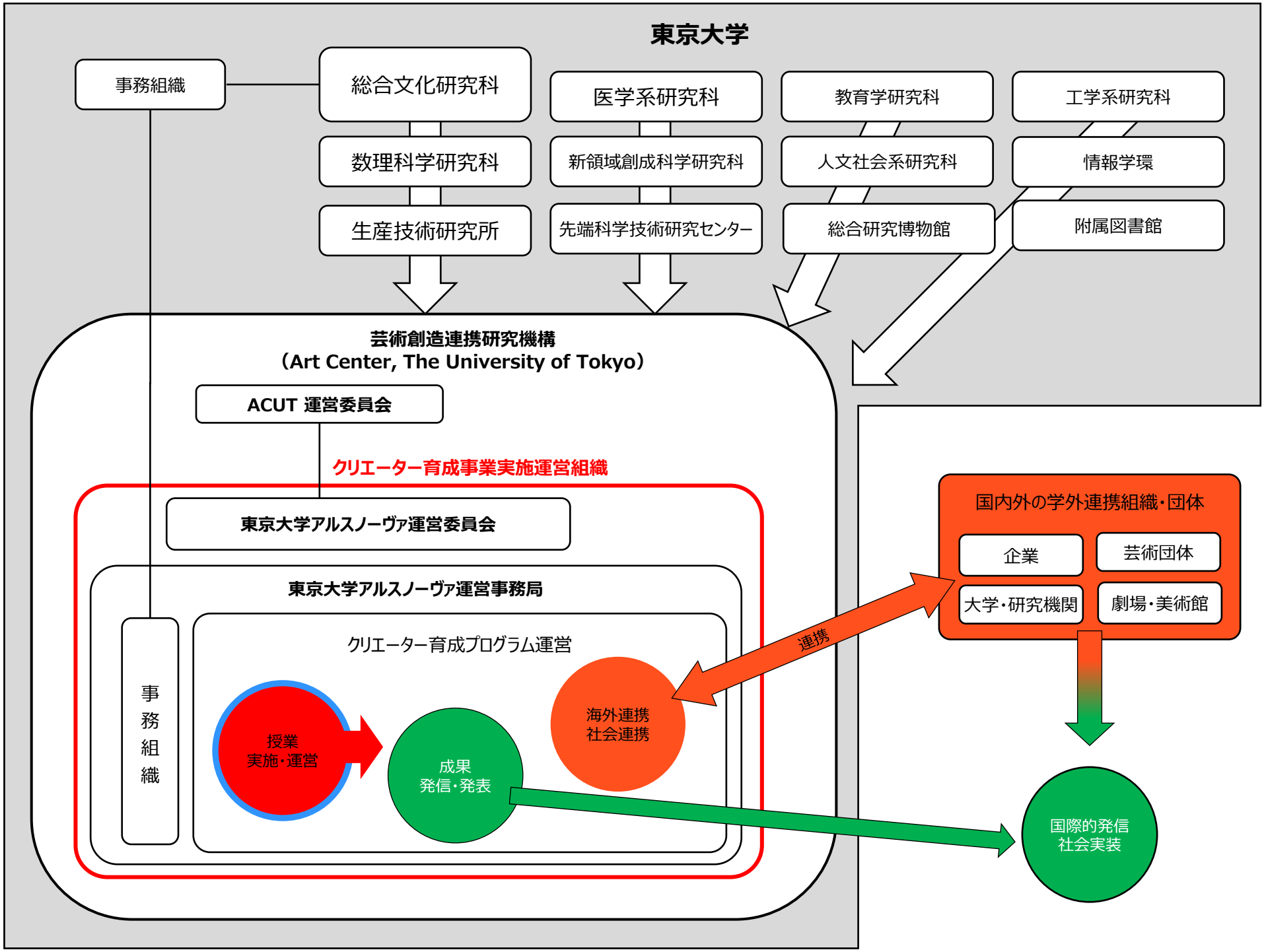
アルスエレクトロニカ・フェスティバル（オーストリア・リンツ）

基礎課程・応用課程における制作や開発の成果をアルスエレクトロニカ・フェスティバル各部門へ応募していくことを予定している。

YPAM: 横浜国際舞台芸術ミーティング（横浜）

4年目の第1期生応用課程修了公演を東京都内のスペースで行う。アジアで最も影響力のある舞台芸術プラットフォームのひとつとして国際的に認知されている芸術見本市「YPAM」へのフリンジ公演として登録し、国内外の舞台芸術関係者を招いて、次年度以降の他の演劇祭での再演を目指す。

実施体制


東京大学
事務組織
総合文化研究科
医学系研究科
教育学研究科
工学系研究科
数理科学研究科
新領域創成科学研究科
人文社会系研究科
情報学環
生産技術研究所
先端科学技術研究センター
総合研究博物館
附属図書館
芸術創造連携研究機構
（Art Center, The University of Tokyo）
ACUT 運営委員会
クリエーター育成事業実施運営組織
東京大学アルスノーヴァ運営委員会
東京大学アルスノーヴァ運営事務局
事務組織
クリエーター育成プログラム運営
授業
実施・運営
成果
発信・発表
海外連携
社会連携
連携
国内外の学外連携組織・団体
企業
芸術団体
大学・研究機関
劇場・美術館
国際的発信
社会実装